

歴史サークル11月例会を開催

11月21日（金） 15名が参加

【史跡案内コース】 （ガイド担当者）

豊浦休憩所



①大官大寺跡

（宮田 29期）



②奥山久米寺跡

（田原 27期）



③山田寺跡

（宮田 29期）



④弘計皇子神社

（佐藤 27期）



⑤大原神社・藤原鎌足

生誕地

（尾関 13期）

⑥酒船石遺跡

（稲見 28期）



⑦飛鳥宮跡

（稲見 28期）



⑧飛鳥京跡苑池

（稲見 28期）

歴史ガイドは、29期生の6月20日（金）に中止した午後の部と、世界遺産候補の構成資産等を合わせて紅葉真っ盛りのもと、参加者は元気よく巡りました。



大官大寺跡

コースは、雷丘（いかずちのおか）を間近に望む里道を抜けて大官大寺跡からスタート。聖徳太子によって学舎として生駒郡平群（へぐり）の地に創建された「熊凝精舎（くまごりしょうじゃ）」をルーツに、大官大寺は国を守護する寺として歩みを始め、大和王権の発展とともに、桜井市磐余（いわれ）の吉備池廃寺（きびいけ）はいじ・百済大寺）、飛鳥の地域に移された高市大寺（たけちのおおでら）、平城京遷都とともに大安寺へと変遷していった歴史をもちます。北方に天香久山が配された伽藍配置が、古代中国の宮を



奥山久米寺跡

意識されていること、九重塔の先端が標高 152.2 mの香久山の頂上を超えていたなど、そのスケールの大きさが示されました。

奥山久米寺跡では、橿原市の久米寺の奥の院説、聖徳太子の弟の久米皇子の発願による寺院説、大官大寺の前身・高市大寺に当てる説など、起源に諸説あることや、発掘調査で出土した「少治田寺（おは



山田寺跡

りだでら）」と墨書された土師器や蘇我氏にかかわる寺院の同范軒丸瓦から、蘇我氏傍系の小墾田臣や境部臣摩理勢の説が紹介されました。

山田寺跡では、発願者の蘇我倉山田石川麻呂が冤罪により非業の死を遂げた歴史的事件の舞台となった寺であることや、本尊の金銅製薬師如来丈六仏が興福寺僧兵に持ち去られたあと焼け残った仏頭が国宝となるなど、創建後に辿った数奇な運命、また、東回廊の一

部である連子窓（れんじまど）、エンタシス柱などの発掘調査等から、“最古の木造寺院ではないか”と評価され特別史跡に指定されていると報告。さらに、ガイド担当者が下見で訪れた折、東方の山田集落の高台に上って寺域を眺めると、中門、塔、金堂が南北に一直線に並んでいることがわかる基壇跡が目に入り、広大な寺域が一望でき、金剛・葛城山脈をバックにしたロケーションが素晴らしいことが強調されました。



弘計皇子神社（近つ飛鳥八釣宮跡）

弘計皇子（をけのみこ）神社は、第23代顕宗天皇の「近つ飛鳥八釣宮跡」の伝承地跡に建立された春日造りの小さな社殿です。兄の億計皇子（おけのみこ、第24代仁賢天皇）とともに、皇位を狙う第22代雄略天皇を逃れ、20数年の逃避行の末に行き着いた播磨で、世継ぎのいない第23代清寧天皇に見いだされて皇位に就くなどのエピソードが紹介



藤原鎌足の生誕地

紹介されました。神社の前には万葉歌碑が2基あり、天武天皇と夫人の藤原夫人（ふちはらのぶにん）が詠んだとされる万葉歌が刻まれており、ガイド担当者が朗唱を披露しました。

酒船石遺跡では、丘陵の「酒船石」への登り坂が竹垣で新しく整備されていました。「酒を醸造する施設」「曲水の宴」



酒船石遺跡では、亀形石造物から酒船石の丘へ登る歩道が竹垣で新しく整備されました

されました。なお、そばを流れる八釣川は「古山田道」につながり、周辺には中臣氏一族の墳墓群と伝えられる八釣・東山古墳群があることなどが紹介されました。

天智天皇から「大職冠」の最高官位を授けられた**藤原鎌足の生誕地**は大原神社にあり、裏手には鎌足が産湯をつかったとされる古井戸が残されています。さらに神社右手には本居宣長が『菅笠日記』に記している藤原寺（とうげんじ）が明治初年まで存在したことが



酒船石

「水占い」など、これまでの様々な説が紹介されました。テレビドラマ、小説やアニメの題材になったこともあり、“飛鳥の代表的な謎の石造物”として知られています。

最近の発掘調査から、斉明天皇の「両槻宮（ふたつきのみや）」など日本書紀で「狂心渠（たぶれごころのみぞ）」と誹られた造営工事との関連が指摘されています。

飛鳥宮跡は、日本の国の始まりとなった4つの王宮の遺構が重層的に存在していることが、これまで190回以上にのぼる発掘調査で明らかになっています。舒明天皇の飛鳥岡本宮▽皇極天皇の飛鳥板蓋宮▽斉明天皇の後飛鳥岡本宮▽天武・持統天皇の飛鳥浄御原宮で、条坊制をもつ新たな都

城、藤原宮へと発展する礎（いしずえ）になりました。発掘調査は現在も実施されており、日々新しい事実が明かされています。この日も、内裏にあたる内郭前殿（儀式空間）の発掘現場にガイド担当者の案内で立ち寄り、説明を受けました。

飛鳥宮内郭の北西すぐに隣接している**飛鳥京跡苑池**は、大正時代に“出水の酒船石”と呼ばれる2基の噴水用の石造物が発見され、現在の野村碧雲荘（京都市）に移されました。平成15年の調査で全体像



飛鳥宮・石敷の井戸跡



飛鳥京跡苑池跡

が明らかになり、南池、北池と渡堤、そこから北に延びる水路、掘立柱建物などが検出。遺跡の規模は東西100m・南北約280mを図り、当時の中国大陸、朝鮮半島に起源とする「庭園」や、神聖な水の祭りの場だったと考えられていることが紹介されました。



山田寺跡で記念撮影

（文と写真：27期佐藤 写真提供：20期北）